

動物臨床看護学実習

VT コース専門科目 2年 前期・後期 45時間 2単位 実習 必修

講師 友成公一 藤田圭佑

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	動物病院における動物看護・受付・診察補助業務、動物病院において院長で医師として診察・治療
学科・クラス指定等	ベテリナリ-テクニシャンコース2年
学習目標	罹患動物を想定し、適正な診療補助や医療器具の操作、入院管理などを学び、医療看護の技術を身につける。また、一連の学習を通じて、医療過誤を未然に防ぐ能力を養う。
学 び の キーワード	動物看護記録、病院マネジメント、用途別保定法、院内衛生管理、医療廃棄物処理法、入院管理、輸液療法、救急医療、救急医療の手技
準備学習及び復習の内容・履修条件	動物看護入門Ⅰ、動物看護基礎実習で受講した内容を復習しておくこと。講義用テキストで、実習と関連のあるところを予習しておくことが望ましい。付属動物病院院長の許可を受ければ、実習内容の復習を付属動物病院で行っても良い。
授業方法	回数3コマ分をひとくくりとして実習を行う。付属動物病院である〈動物の病院〉が実習場所となり、実際の医療器具や薬品・消耗品を使って行う。必ず白衣を着用して実習に望むこと。必要に応じて資料を配付するが、メモ帳を携行して重要事項を書き留めておくこと。医療器具撮影の限りにおいて、携帯電話の携行を許可する。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の教科書第6巻（緑書房）その他
回数	授業内容
1～3	バイタルチェックを中心とした動物基礎情報のカルテ記入やカルテ記号・カルテ用語を学ぶ。
4～6	動物病院のカルテに記載されている内容を把握し、理解できるようになる。
7～9	医薬品や処方食等の管理及び各種伝票処理を学ぶ。処方箋と調剤用語を理解して、調剤手技を身につける。
10～12	犬猫に各種注射をする時の保定法や駆血法を学ぶ。
13～15	院内の衛生管理全般について学ぶ。医療廃棄物処理法について覚える。
16～18	入院管理の基礎について学ぶ。
19～21	疾病別入院管理の注意点について学ぶ。
22～24	輸液療法の適切な操作法を身につける。
25～27	輸液剤の種類・目的・用途について学ぶ。

28～30	救急医療の基礎について学ぶ。
31～33	救急医療を施す必要のある主な疾患について学ぶ。
34～36	呼吸器・ショック・DICについての救急医療とその手技について学ぶ。
37～39	循環器・消化器についての救急医療とその手技について学ぶ。
40～42	尿路閉塞・異常分娩・てんかん・中毒などその他の救急医療とその手技について学ぶ。
43～45	器具の操作法を問う実技試験と確認のための筆記試験を行う。